



安全性データシート

発行年月日 2014年4月24日

改訂年月日 2025年8月15日

改訂番号 1

1. 化学品および会社情報

項目	内容
製品名	CL080, CL090（混合物）
含有成分	1-デセンジマー水素化物
推奨用途	粘度計および密度測定機器の校正・性能確認用標準液
供給者（国内責任事業者）	株式会社エスティーエム 埼玉県入間郡毛呂山町川角 502-6 TEL 049-276-1060 FAX 049-276-1059
製造者（海外）	Cannon Instrument Company 2139 High Tech Rd., State College, PA 16803-1733, USA

2. 危険有害性の要約

危険有害性の種類	区分	H-文言
誤えん有害性	区分1	H304：飲み込んで気道に侵入すると致命的なおそれ

内容

表示

GHS 絵表示



注意喚起語 (Signal word)

危険

P-文言

P301+P310

【誤飲】医師または毒性センターに直ちに連絡を

P331

吐かせてはいけない

P405

施錠して保管すること

P501

内容物や容器は、地域の規制／許可を受けた廃棄業者に処理を依頼すること

その他の危険有害性

- 皮膚に接触すると有害なおそれ
- 一般消費者に供給される場合は、チャイルドレジスタンスキャップおよび触知可能な警告表示が必要

3. 組成及び成分情報

成分名	CAS番号	含有率（質量％）	GHS区分（Hコード）
1-デセンジマー水素化物	68649-11-6	10～30％	誤えん有害性 1（H304）、急性毒性（吸入） 4（H332）

4. 応急措置**ばく露経路****応急処置**

吸入	新鮮な空気の場所へ移動させる。呼吸が止まっている場合は人工呼吸を行い、直ちに医師の診察を受ける。呼吸困難時は酸素を投与（訓練を受けた者による）。肺水腫などの遅発性症状の可能性がある。直接接触を避け、必要に応じてバリアを用いて人工呼吸を行う。
皮膚接触	石けんと水で洗浄する。症状が現れた場合は医師の診察を受ける。
眼への暴露	大量の水でまぶたの裏まで十分に洗浄する。症状が現れた場合は眼科の診察を受ける。
飲み込み	【誤飲】嘔吐させてはいけない。吐いた場合は頭部を腰より低くして気道への侵入を防ぐ。口をすすぐ。意識のない者には経口で何も与えない。直ちに医師の診察を受ける。
応急処置者の保護	医療従事者には化学物質の種類を伝え、自らの安全を確保する。皮膚直接接触を避け、必要に応じてバリアを使用。適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- **使用可能な消火剤**：周囲状況に応じた消火剤（粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、水スプレーなど）を使用
- **使用してはならない消火剤**：特に指定なし
- **特有の危険性**：特定の危険性は報告されていないが、加熱分解により有害ガスを生じる可能性あり
- **消火者保護具**：自己完結式呼吸器（SCBA）および完全な防火装備を着用

6. 漏出時の措置

人体への保護措置

- 換気を十分に行い、皮膚、眼、衣類への接触を避ける。
- 必要に応じて適切な個人用保護具（手袋、保護眼鏡、防護服など）を着用。

環境汚染防止策

- 安全に実施可能な場合は漏れを止める。
- 下水道、河川、土壌への流出を防ぐ。

封じ込めおよび収集方法

- 安全に実施可能な場合は漏れを止める。
- 吸収性の不活性材料（例：砂、珪藻土、バーミキュライトなど）で吸着し、適切なラベルを付した容器に回収。
- 回収物および汚染物は環境規制に従い廃棄。

二次災害防止策

- 汚染された器具や表面は環境規制に従って十分に洗浄。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い時の注意：

- 作業中は皮膚、眼、衣類への接触を避ける。
- 十分な換気を確保する。
- 適切な個人用保護具を使用する（セクション8参照）。
- 飲食・喫煙を禁止し、作業後は手洗いを行う。

衛生管理

- 作業前後に手や顔を洗浄し、汚染衣類は再使用前に洗濯する。
- 汚染防止のため、休憩エリアに汚染衣類や防護具を持ち込まない。

保管条件：

- 容器を密閉し、乾燥した冷暗所で保管する。
- 換気の良い場所に保管する。
- 施錠して保管する。
- 子供や無関係者の手の届かない場所に保管する。
- 他の物質（酸化剤など）から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度（参考値）

- 1-デセンジマー水素化物：TWA 5 mg/m³、ピーク 20 mg/m³（ドイツTRGS値）

工学的対策

- 局所排気装置、全体換気装置、洗眼器、シャワーを設置する。

個人用保護具

用途	保護具内容
呼吸用	通常使用条件下では不要。ばく露限界を超える場合は適切な呼吸用保護具を使用。
手の保護	耐溶剤性手袋（EN 374準拠）
眼の保護	側面保護付き安全眼鏡または化学防護ゴーグル（EN 166準拠）
皮膚・身体の保護	長袖作業衣、防護服

衛生対策

- 作業後は必ず手洗い・うがいを行う。
- 汚染衣類は洗浄後に再使用。

環境管理

- 排気・排水は環境規制に適合させる。
-

9. 物理的及び化学的性質

項目	記載内容
外観／状態	無色透明液体
匂い	弱い炭化水素様
融点／凝固点	データなし
沸点範囲	データなし
引火点（閉カップ）	>160 ° C
動粘度	10～15 cSt @ 40 ° C
可燃性	データなし
水溶性	水に不溶
その他の溶解性	有機溶剤に可溶
分配係数（log P）	>6.5
蒸気圧	データなし
密度	0.81～0.82 @ 15 ° C
自動着火温度	データなし
爆発限界	データなし

10. 安定性及び反応性

- **安定性**：通常の使用条件下では安定。
- **反応性**：通常の使用条件下では反応性なし。
- **危険反応の可能性**：通常取り扱い条件では危険な反応は起こらない。
- **避けるべき条件**：酸化剤などの不適合物質との接触。
- **不適合物質**：強酸化剤。
- **危険な分解生成物**：既知の有害分解生成物なし（加熱や燃焼により有害ガス発生の可能性あり）。

11. 有害性情報

急性毒性（混合物としての推定値）

- 経口：ATEmix > 5,000 mg/kg
- 経皮：ATEmix > 2,000 mg/kg
- 吸入（ミスト）：ATEmix > 5 mg/L

成分情報

- 1-デセンジマー水素化物（CAS 68649-11-6）
 - LD₅₀（経口、ラット） > 5,000 mg/kg
 - LD₅₀（経皮、ウサギ） > 3,000 mg/kg
 - LC₅₀（吸入、ラット、4時間） 0.9～1.4 mg/L

症状・影響

- 吸入：呼吸困難、咳、めまい、肺水腫の可能性（遅発性あり）
- 皮膚接触：有害のおそれあり。繰り返しのばく露で皮膚乾燥やひび割れを起こす可能性あり。
- 眼：刺激のおそれあり。
- 飲み込み：誤えんによる肺障害の可能性。

発がん性・変異原性・生殖毒性：該当なし

感作性：該当なし

特定標的臓器毒性（単回・反復ばく露）：該当なし

誤えん有害性：区分1（H304）

12. 環境影響情報

- 水生環境有害性：詳細データなし（環境影響は未完全評価）
- 生分解性：情報なし
- 生体蓄積性：log P > 6.5（高蓄積性の可能性あり）
- 土壌移動性：情報なし
- PBT/vPvB 判定：該当なし（評価上）
- その他の影響：情報なし

13. 廃棄上の注意

- 本製品や未使用残渣は、家庭廃棄せず、法令に基づき都道府県等の許可を得た産業廃棄物処理業者へ委託してください。
- 汚染された容器や包装は再利用せず、内容物を除去し密閉の上、専門業者に廃棄を依頼してください。
- 廃棄は環境規制および地方自治体の条例に従って行うこと。
- 廃棄物コード（EWC/AVV）は用途に応じて使用者が決定すること。

14. 輸送上の注意

項目	内容
UN番号	該当なし（国際輸送規制上は非危険物）
輸送上の名称	該当なし
危険物クラス	該当なし
包装等級	該当なし
適用規則	IATA（航空）、IMDG（海上）、ADR/RID（陸上）：いずれも規制対象外
海上汚染性	該当なし
限定数量	適用外
特記事項	未洗浄容器の切断・溶接・研磨は禁止（残留蒸気による爆発リスク）

15. 適用法令

法令名	該当性	備考
労働安全衛生法（安衛法）	該当	GHS区分によりラベル表示・SDS提供義務あり（法第57条）
毒物及び劇物取締法（毒劇法）	非該当	該当成分なし
有機溶剤中毒予防規則	非該当	該当区分なし
PRTR法（化管法）	非該当	該当成分なし
消防法（危険物規制）	非該当	引火点が160℃超のため危険物の規制対象外
化学物質審査規制法（化審法）	非該当	PBT/vPvB該当なし
その他	該当なし	—

16. その他の情報

- 発行日：2014年4月24日
- 改訂日：2025年8月15日
- 略語：

GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）

TWA：Time Weighted Average（時間加重平均値）

STEL：Short-Term Exposure Limit（短時間曝露限界値）

OEL：Occupational Exposure Limit（作業環境許容濃度）

- 参考文献：

- 欧州CLP規則（EC 1272/2008）
- JIS Z 7252:2019（化学品の分類に基づく表示及び文書による警告）
- JIS Z 7253:2019（安全データシートの作成方法）
- 経済産業省 GHS分類ガイダンス
- 各成分のSDS（製造者公表値）

免責事項：

本SDSは、現時点で入手可能な情報と知見に基づいて作成したものであり、安全性を完全に保証するものではありません。本資料は、化学品の適正な取扱い、安全対策、法令遵守のための参考資料であり、特定の使用条件における適合性や性能を保証するものではありません。使用者は、適用される法規制および使用条件に従って、本製品を安全に取り扱う責任を負います。

安全データシート終わり